

令和7年度

講評と対策

入学試験問題



四天王寺高等学校

国語

問題内容

配点

出題の意図

一 『センスの哲学』 評論：千葉雅也（文藝春秋）	37点	芸術が世界を限定する方法の多様性に触れることで人生の多様性を肯定できるようになるという二者の関係性を読み取る。
二 『板上に咲く』 小説：原田マハ（幻冬舎）	38点	すべてをなげうってでも芸術の価値転換を図ろうとする芸術家とその周囲の人々の、苦悩や思いやりを読み取る。
三 『沙石集』 古文：無住	25点	聖徳太子の現世譚とそれに続く前世譚から、仏法の利益を読み取る。

各問題講評（正答率は各問末尾の括弧内に示した。）

- 【一】
- 問一 それぞれa「稲」、b「哲」、c「衡」、d「換気」と混同している誤答が目立った。(70%)
- 問二 Aよく分からない意味同士を結びつけたカウの誤答が多い。(25%)
B文脈のみで判断したアの誤答が多かったが、語意問題は辞書上の意味が優先されると心得てもらいたい。(15%)
- 問三 前後の段落におけるキーワード「予測可能/不可能」を逆説的言説に正しく当てはめられるかを問うた。(50%)
- 問四 物質と生物の差違を、作用・反作用で説明している。「作用・反作用がゆるい」は「予測不可能(問三)」と繋げる。(80%)
- 問五 直後の「人間の考えと行動はいろいろでありうるから、対立も起きる…」や、2頁最終段落の「衝突(問一c)」「現実の問題に対して自分はこういう立場をとるべきなのかという悩みは尽きない」などの記述から、立場によって意見が対立する例を選ぶ。(50%)
- 問六 「脱-」という接頭語で「ある状態から抜け出して、新しい状態へ移ること」を指す。ここでの「脱目的化」とは、直前段落の言葉を用いれば「目的が限定されず、何をしたらいいかわからなくなること」、直後段落の言葉を用いれば「意味(ノ意義)がわかるという納得まで行かなくとも成立するようになること」と捉えて解答する。(50%)
- 問七 直後の段落にタスク処理についての説明があり、その次の段落で「芸術でも」タスク処理と芸術の共通点を述べる記述が始まる。傍線部より前にあるタスク処理のみの説明部分から、結果的には芸術とも共通するタスク処理の特徴を抜き出した答えは減点した。(25%)
- 問八 芸術という観念世界から現実世界への置換という事象を捉える必要のある問い。傍線部中にある「それ」の指示内容として、直前の「有限性の多様性」をそのまま用いて芸術に限定していない答案が多い。また、「多様」はキーワードとして用いることになるが、「様」の漢字のつくりの書き方が間違っているものも散見される。もともとなる文をうまく活かした答案と、誤った解釈を加えてしまった答案とで点差が開いた。(40%)
- 問九 直前「可能性の溢れを生きている」や、第二意味段落の二行目にある「人間の本質である『可能性の過剰』」という記述は、第一意味段落の最終段落「人間はそれ(=行動の多様性)を誇りに思い、つまり自分は自由であるという意識を持ち、その余裕を楽しみます」に通じる内容である。(30%)
- 【二】
- 問一 a「意勢」、b「こうめん」、c「創/想/荘+大」という誤答が多かった。特にcの正答率が低い。(70%)
- 問二 A余計な説明の入ったエの誤答が多い。(50%)
B直後を参考にして、ほは「友人」を選べている。(90%)
- 問三 【一】の問七と同じく【も】に注目して、直前にある「経済的余裕のなさ」が理由の一つであることを読み取る。もう一つの理由は直後の段落で「一方で」と述べられる部分にある。第二段落には「棟方が木版画に強く惹かれた理由」が書かれているが、この木版画は多色刷りの木版画を指しており、「単調な鮮やかさ」は問題にしている「白黒の木版画」の「対比の鮮やかさ(ウ)」ではない。(70%)
- 問四 A四字熟語「前人未踏/到」の誤字「未倒」や、「前代未聞」との混同が見られた。B直後の「狭く険しい山道」から傍線部の行為の性質を読み取る問題。(50%)
- 問五 問いの指示に従わず、安易に直後をまとめて「～から。」という理由説明の文末表現を付した誤答が多かった。(50%)
- 問六 直前「それ」の指示内容を追うことで「定型で、面白くない。奥行きもない。つまり深遠さがなく、単純だ。」という「一般的な版画の印象」が分かり、直後で棟方が「これを覆したい」と思っているところから、その逆の性質を抜き出さねばならないのだが、「一般的な版画の印象」のほうを答えている誤答が多く、本文の主旨が全く読めていない受験生がいた可能性もある。(40%)
- 問七 時間不足で解答に至らなかったらしい空白答案が1割程度見られた。(90%)
- 問八 それぞれ、ア「まずは生活の基盤を安定させるべきだ」という松木の信念、ウ「松木の抜け目のなさに棟方は感心」、エ「自分一人の力で家族を養おう」という棟方の覚悟」の部分に誤りがある。長文選択肢だがよく読んで解答できていた。(75%)
- 【三】
- 問一 主語判別問題。ほとんど正しく読解できていた。(98%)
- 問二 仮名遣いの書き換え問題。ほとんど正しく書けていた。(95%)
- 問三 (1) 設問部分にある「程度の差こそあれ」をヒントにすれば、古典文法の知識がなくても逆接確定条件の用法と見抜けたはずだが、エ「から」を選んだ誤答が多かった。(40%)
(2) 和歌を直訳すれば「斑鳩の富雄川が絶えるならば、私の大君の御名を忘れるだろうけれども。」となり、その後の省略部分を勘案して正解に至りたい。(40%)
- 問四 「先生」を人物と読んで誤答したものが多かった。(30%)
- 問五 (1) 主語判別問題。ほとんど正しく読解できていた。(95%)
(2) 太子の「御恩徳」によって「因果の道理をわきま」えるようになったと読んだ誤答が多かった。「恩徳」によって「仏法」が広まり、それによって「因果の道理をわきま」えるようになったと細かく読みたい。(70%)
- 問六 ほは正解できていた。(90%)

次年度入試 アドバイス

四天王寺高校の入試問題では、例年長文を出題していますので、まずは時間内に読み切る訓練をしてください。演習の際は記述問題まできちんと書いて、時間内に解答する力をつけてください。本文が長いということは「具体例→筆者の主張」「登場人物の心情や関係の変化」を、多くの情報のなかから掴み取る力が要求されます。傍線部の近くだけを見てとるのではなく、傍線部のことばのニュアンスまで突き詰めて考え、設問で要求されていることは何か(心情を答えるのか、理由を答えるのか、性質を表す「～的」という語なのか、物の名を表す名詞なのか等)に注意して、設問をヒントに筆者の「言いたいこと(主張)」を読み取り、時間をはかって解答する練習を積むことをお勧めします。中学生の話言葉では使わない抽象的な概念を表すことばを用いた文章も出題していますので、新聞のコラムを読んで、現代社会の問題について考えたり、教科書で習った作家の他の作品を読んだりして、話し言葉以外の文章語や少し古い言い回しに慣れてください。文章を読むスピードは、読書量に関係します。いろんな種類の文章に親しみ、辞書を引いて語彙を豊かにしてください。古文では中学校の教科書で習わない古典文法の知識は出題していません。教科書に掲載されている古文を繰り返し音読することで、長い一文の中で主語の変更が起こる古典の文章に慣れてください。音読は最も有効な古典学習法です。

数 学

問題内容

配点

(100点中満点)

出題の意図

1. 計算問題	25点	基本事項(式の計算・連立方程式の解)の確認。
2. 小問集合	10点	基本事項(データの分析)の確認。
3. 2次関数	15点	2次関数のグラフと三角形の面積・回転体の求値問題。
4. 場合の数	18点	引いたカードの数が条件をみたす場合の数を求める。
5. 平面図形	16点	角の二等分線の定理と相似からの求値問題。
6. 空間図形	16点	正三角錐の展開図から線分の長さを求める。展開図で求めた線分の長さをもとに体積比を求める。

各問題講評

全体として、約54%の出来具合でした。

- 80%の正答率でした。(1)はマイナスの抜けや指数の計算間違いがありました。(2)は2つの括弧を掛け合わせてから3乗するのがポイントです。全体としては25点満点をとっている受験生も多かったので計算間違いなどがないように気を付けて全問正解して欲しいと思います。
- 70%の正答率でした。四分位数の基本問題です。データそのものは与えられていませんが、データをまとめたヒストグラムからおおその四分位数などを読みとりましょう。
- 2次関数のグラフと三角形の面積、回転体の体積の問題です。(1)はほぼ100%の正答率でした。(3)は2つの円錐の体積の和です。2つ円錐の底面の円の半径は等しく、その長さは(2)の三角形APBの面積を、辺ABを底辺として考えたときの高さにあたります。三角形の面積を考えるとときには問題に応じて、いろいろな辺を底辺として考えられようになって欲しいと思います。
- 今年の入試問題でいちばん正答率が低く、(1)は約33%、(2)は約10%、(3)は約8%の正答率です。同じ数字の書かれたカードが複数枚あると読み間違えているような解答が見られました。(1)は問題の設定を正しく読み取れているかを確認する問題です。正しく読み取れてさえいれば、起こりうる場合をすべて書き出すことで容易に正解にたどり着きます。特に場合の数や確率の問題では、そのときによって設定が大きく変わりますので問題文を注意深く読むことが大切です。
- (1)は角の二等分線の定理でよくできていました。(2)は三角形ABEと三角形CDEが相似であることに気が付けば、対応する辺の比から求めることができます。さらに(3)では(2)の結果と、三角形ACDと三角形CEDが相似であることをあわせて求めます。正答率は低く、約10%でした。
- 正三角錐の展開図から線分の長さや体積の比を考える問題です。正答率は(1)80% (2)45% (3)20%でした。(1)は側面の3つの二等辺三角形の展開図においてAとAを結ぶ線分の長さを求めます。

(2)では三角形OABをもう1つ追加して、4つの二等辺三角形で展開図を考えることがポイントです。

次年度入試 アドバイス

例年、中学1年から3年までの全分野より偏りなく出題し、「正確な計算力を身につけているか、基礎事項を理解しているか、題意を読み取り論理的に考えていくことができるか。」などをみる問題を作成しています。正確な計算力と柔軟な思考力が試されるので、すばやく計算する練習とあきらめずじっくりと考える練習を2つの柱として準備をしてください。

三角形の合同、相似、面積、文章から連立方程式や2次方程式を立てて解く問題、立体図形、2乗に比例する関数、場合の数と確率、円周角の定理、三平方の定理などは比較的良好に出題されているので、特に力を入れて勉強しておきましょう。

ただし、難問を練習する必要はなく、標準問題を中心にどのような基本的事項が使われているのかを確かめながら勉強しておくことが最も有効な対策です。ケアレスミスにも注意しましょう。「部分は全体より小さい」「長さ・面積・体積は正の数」ということを意識し、「文字は正しいか」「符号は正しいか」「累乗は正しいか」「比の左右は合っているか」「最後まで因数分解できているか」「聞かれたことに答えたか」に気をつけてください。

最後に、過去の問題を研究する際には、時間配分に十分注意し、配点はどの問題もほぼ均等なので、まず計算問題と各大問の(1)、(2)を確実に正解していきましょう。また、(3)は(1)(2)がヒントになっていることもあるので(1)(2)の結果が使えるか考えてみてください。入試当日を想定して時間を測って演習しましょう。

英語

問題内容

配点

出題の意図

I 長文(物語)	25点	英文読解と内容把握力をみる
II 長文(エッセイ)	21点	英文読解と内容把握力をみる
III 会話文	20点	対話形式の文の読解力をみる
IV 英作文	12点	英文の構成力をみる
V 2文同意	8点	単語力と表現力をみる
VI 整序	6点	英文の構成力をみる
VII 語彙	4点	単語力と表現力をみる
VIII 発音・アクセント	4点	音声の定着度をみる

各問題講評

[I] 二人の女性の卒業旅行を描いた物語。正答率65%弱。問1の文脈判断による動詞の選択と語形変化は正答率の個人差が大きかった。誤答が目立ったのが問4で、間接疑問文の語順と時制の一致ができていなかった。問6の和訳問題では日本語として不自然さが目立ち、文脈への配慮も不足していた。(女性2人の話なのでtheyの訳としては「彼女たち」が自然) they bothのbothが抜けていたり、run back toward～のbackの訳が抜けている解答も多かった。問8の英問英答は、答えの fifty minutesは解答できても、主語や動詞の時制の誤りが多く、文として完成している解答が少なかった。問9の本文内容に関する正誤問題は選択肢エの正答率が低く、本文及び選択肢の内容を細部まで正確に読み込めていないことがうかがえた。大まかな話の流れを追うだけではなく、内容を正確に把握する力が求められる。

[II] 各文化において色がどのような意味合いを持っているのかに関する文章。正答率60%。問3の文整序問題は正答率が約50%で論理的な流れが理解できていなかった。問4①の和訳は第4文型の文であることを理解できていない解答が多く、a lot about ～のa lotを形容詞と解釈した誤答が多かった。同じく②の和訳も関係代名詞が導く形容詞節の修飾関係を見抜けていない解答が予想より多く、またsomebodyを「体のどこか」snakeを「菓子(スナック)」と誤訳している解答も多かった。基本的な単語に習熟すると共に、構造を正確に把握できる訓練を積んで欲しい。

[III] 例年同様80%と正答率は高かった。

[IV] 正答率60%弱。問2では“since then”と続くので完了形を用い、問4では「親切にすれば」とあるのでIfで始まる節を解答すべき問題だったが、これらの文法が定着していない受験生が多く見られた。また問2 keep in touch 及び 問4 look forward to ingなどのイディオムも誤答が目立った。正確な文法や頻出イディオムを使いこなす練習が必要である。

[V] 正答率65%弱。誤答が多かったのは問1で、No other computerと答えるべきところをAny other computerまたはNo other computersとする誤答が目立った。その他誤答が多かったのは問4で、be afraid ofに続くのでmakingとすべきところを原形makeとしている解答が多かった。

[VI] 正答率85%程度と高かった。誤答としては、問2「help+人+with+物」の「人」と「物」が逆になっているもの、my brotherとhis homeworkの代名詞が逆になっている誤り、問3でtaughtの綴りをthoughtとする誤記などがあった。

[VII] 語彙 及び [VIII] 発音 合わせて50%弱の正答率。
例年発音・アクセント問題の正答率は低め。正確な発音を覚えることはリスニング力の向上にもつながるので、音読をしながら単語を覚えるなど対策が必要と思われる。

次年度入試 アドバイス

出題内容は全て中学履修範囲内です。まずは教科書の単語や文法、例文を確実に覚えましょう。長文読解の内容はある程度把握できても、英作文等において、綴りの間違いや、覚えた英語表現を正確に使いこなせていない解答も多く見られます。単語は音読しながら発音と合わせて覚えましょう。きちんと基礎を固めた後はできるだけ多くの英文に触れてください。英語独特の表現に慣れておくことも英作文等に取り組む際に大切です。読解においてはテーマについての知識があると、その英文が一層読みやすくなります。普段から読書はもちろん、新聞等に掲載されている様々な話題に関心を持ち、知識を増やしましょう。

理科

問題内容

配点

出題の意図

1 太陽の動きと天気の変化	25点	太陽の動きと天気の季節変化について、基本的な知識と理解を問うた。与えられた図やデータの情報を正しく読み取り、考察する力を問うた。
2 凸レンズがつくる像	10点	凸レンズが像を作る仕組みについて、知識と理解を問うた。
3 二酸化炭素と化学反応	25点	化学反応に関するさまざまな知識や理解についてと、知識をもとに考え判断する力についてと、計算によって関係性を導く力とを問うた。
4 定滑車と動滑車	15点	定滑車と動滑車を用いた実験を通して、中学理科の力学分野で学習する内容を幅広く問うた。知識にとどまることなく、原理や法則を活用して思考する力を試した。
5 生物の分類と消化酵素	25点	観点を意識して生物を分類できるかと、消化酵素に関して、文章や図から得られる情報と自らの知識をつなぎ合わせる力があるかを問うた。

各問題講評

- 1 全体的によく出来ていたが、設問の指示に従っていないかったり、図を正しく理解できていなかったりすることによる誤答が多かった。表や図の読み取りにおいては、一部のデータから短絡的に判断せず、与えられた情報を正しく読み取って考察してほしい。
- 2 公式を先取りで学習している生徒は、解答に-の符号が付いているものなどが見受けられた。公式を知っているだけでは難しく、本質を理解していないと解答できない。実験する時には興味をもって観察してほしい。
- 3 反応式や化学式の基本的な計算、電気分解の基本的な知識はよく出来ていたが、思考を必要とする問いには苦戦していた。グラフは描き方だけでなく、どのような傾きの直線であるか、どの点を通る曲線であるかなどの関係性が大切である。
- 4 語句を答える問題や知識を問う問題については正答率が高かったが、その他の問題については正答率が特に低かった。「仕事の原理」や「慣性の法則」、「力学的エネルギーの保存」といった用語は知っているが、実際の問題を解く際には活用できていない答が目立った。
- 5 「タンパク質分解といえば胃液」のように、短絡的に考えたことによる誤答が多く見受けられた。選択問題では、すべての選択肢をよく読み、自分の思い込みによる誤答を防いでほしい。問題全体に手がかりがちりばめられていたので、それらをヒントとして使える柔軟な思考ができるように心掛けてほしい。

次年度入試 アドバイス

以下に理科の対策を列挙しておくので、しっかり準備してください。

- ☆ 中学の理科で学ぶ重要な「用語」、「単位」などを正確に理解する。特に「用語」は漢字で答えることを指定される場合が多い。記述では用語を的確に用い、誤字脱字に注意する。
- ☆ 実験や観察に関する問いが多いので、教科書で扱われている実験については、実験操作の意味を理解し、データの処理、グラフの作成や読み取り、計算については正確性とスピードを必要とする。
- ☆ 化学式や化学反応式は正確にかけよう、考察する問題では、必ずそのヒントが問題中に含まれているので問題文をしっかりと読み取るトレーニングを積み重ねる。
- ☆ 実験や観察には積極的に参加し、生活の中で体験する身近な現象などに、日頃から関心をもつよう心がけることも大切である。

社会

問題内容

配点

出題の意図

1 地理分野	20点	エネルギー資源をテーマにして、世界の文化や人口など、さまざまな項目を出題した。
2 地理分野	10点	日本の各地域のようすを理解できているかを、工業に関連したテーマで出題した。
3 歴史分野 (日本史分野)	20点	貨幣をテーマにして、古代から近代までの通史を政治・外交・社会経済・文化の面から多角的に出題した。
4 歴史分野 (世界史分野通史)	20点	歴史上の人物の功績やその人物が生きた時代について出題した。
5 公民分野 (現代社会、政治)	10点	現代社会や政治の特徴について出題した。
6 公民分野(時事問題)	20点	2024年の出来事に関する時事に関して出題した。

各問題講評(具体的に)

- 1 全体的に正答率が高かったが、問7ではメタンガスやフロンガスなど、環境分野で扱う用語での誤答が見られた。問9・問11では表に似たような国名・数値が並んでいたため誤答が多かった。
- 2 工業に関する正誤問題であったが、正答率がかなり低くなる受験生が見られた。(4)については a b ともに、数値をかなり大きくした誤文を作ったが、正文と判断する受験生が多くみられた。
- 3 全体的に正答率は低かった。出題形式としては、「語句記述」・「年代整序」・「正誤判定」などであったが、語句記述では、問10がほとんど出来ていたのに対して、問2はほとんど出来ていなかった。「年代整序」は正答率があまり高くなかったが、それ以上に問5・問6の正答率が高くなかった。
- 4 時代の偏りがないようまんべんなく出題した。問3、問8、問9の正答率がやや低かったが、同時代の日本の歴史や世界の歴史の判断に迷ったり、また、長めのリード文を正確に読むことに不慣れな受験生が多かったのではなかろうか。
- 5 問2と問4の正答率が低かった。現代社会についての分野についてもしっかり学習してもらいたい。
- 6 問6と問7-1の正答率が低かった。世界の出来事については、例年、正答率が低い傾向である。

次年度入試 アドバイス

1・2【地理分野】

世界地理・日本地理ともに、気候や文化といった分野ごとに、各地の特色をまとめるような勉強をしてください。資料やデータについては、数値や順位の暗記ではなく、偏りかたなどの違いに気づくようにしてください。地名が出てきたときは、地図帳を使ったりノートに手描きの地図を描いたりして、おおまかな場所を把握できるようになってください。その上で、地域の特色をまとめたり、その特色を作り出した背景を考えたりして、勉強をしていきましょう。

3【歴史分野 日本史】

まずは教科書をしっかりと読み込んで、内容理解をすることが基本となります。その上で、時代の流れを大きな視野で理解するように努めてください。特に年代整序問題に正答するためには必要になってきます。さらに、歴史を政治面・外交面・社会経済面・文化面から多角的に捉えるように心がけて下さい。また、過去問にも必ず取り組んでください。

4【歴史分野 世界史】

①教科書をしっかりと熟読し、時代(年代)と地域(国)の特徴を把握・理解することに努めましょう。

②教科書や副教材に掲載されている図版や写真・史料・グラフには必ず目を通しましょう。

③①、②を念頭にしっかり学習し、おおよその歴史の流れを直線的のみならず、広い視野で全体を把握するように努めましょう。歴史学習は、コツコツ積み重ねていくことが肝心です。

特に各時代における世相とそれに関係する事から(日本の歴史も世界の歴史に含まれます)の正確な知識を習得しましょう。

5・6【公民分野】

現代社会についての分野、政治的分野、経済的分野も教科書の本文だけでなく、注釈・欄外・表・グラフ等も含めてしっかり学習しておいて下さい。時事問題に関しては普段からテレビのニュースや新聞などに関心を持って、学習を深めて欲しい。その際、日本と世界の両方の出来事に関心を持って欲しい。

【全般】

地理分野・歴史分野・公民分野を全体的にバランス良く学習することが求められる。普段から教科書だけではなく、地図帳・資料集・新聞なども活用して、幅広い知識を身につけるような学習をして欲しい。